

[成果情報名]ヒノキ林での巻枯らし間伐の作業適期および林分内のキバチ類の発生

[要約] 5～8月に巻枯らし間伐を行うと6ヶ月後には半数以上の処理木で葉が変色し、枯死が進むため、巻枯らし間伐の適期は5～8月である。巻枯らし間伐区のキバチ類の発生量は定性間伐区と比べて多いとはいえない。

[キーワード] ヒノキ、巻枯らし間伐、作業適期、キバチ類

[担当] 総合農林試験場・林業部・森林環境科

[連絡先] 電話（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4292

[区分] 林業（育林）

[分類] 指導

-----  
[背景・ねらい]

巻枯らし間伐は一度の簡易な作業で間伐不足林分を適正密度まで誘導出来るが、処理木の変化からの作業適期、キバチ類の発生との関係などについて不明な点が多い。そのため、これらについて明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 5～8月に巻枯らし間伐を行うと、6ヶ月後には半数以上の処理木で葉の変色（一部変色含む）が見られ、枯死化が進む（図1）。
2. 巻枯らし間伐区（間伐率51.5%）と定性間伐区（間伐率30.5%）で、キバチ類の誘引捕獲調査（間伐前～間伐後3年間）を行ったところ、間伐後のキバチ類の発生量は巻枯らし間伐区が定性間伐区と比べて多いとはいえない（平均値の差の検定  $p < 0.05$ ）（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- ・ 巻枯らし間伐の作業を行う上での参考になる。
- ・ 巻枯らし間伐を行う時期にかかわらず、1年経過すると7割以上の処理木で葉色の変化が確認される。
- ・ キバチ類については、試験区における残存木の変色調査を行う必要がある。

[具体的データ]

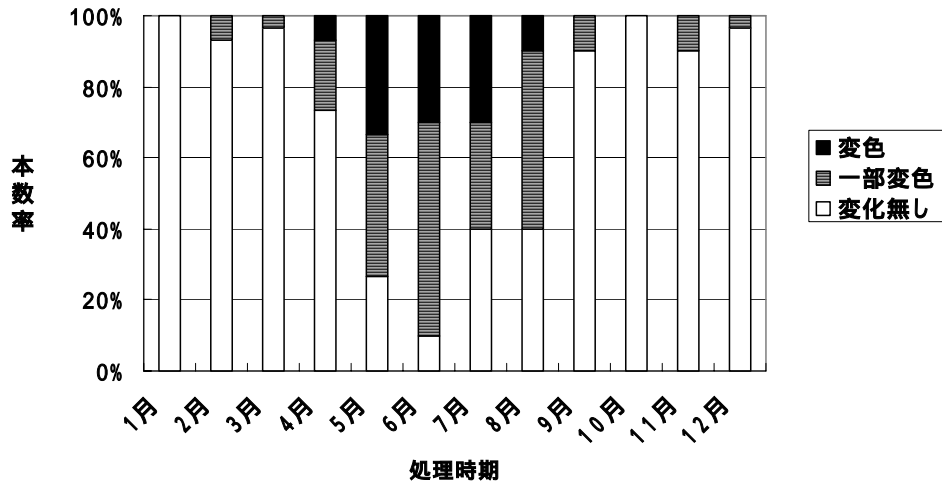


図1 処理時期別葉色変化 (6ヶ月後)

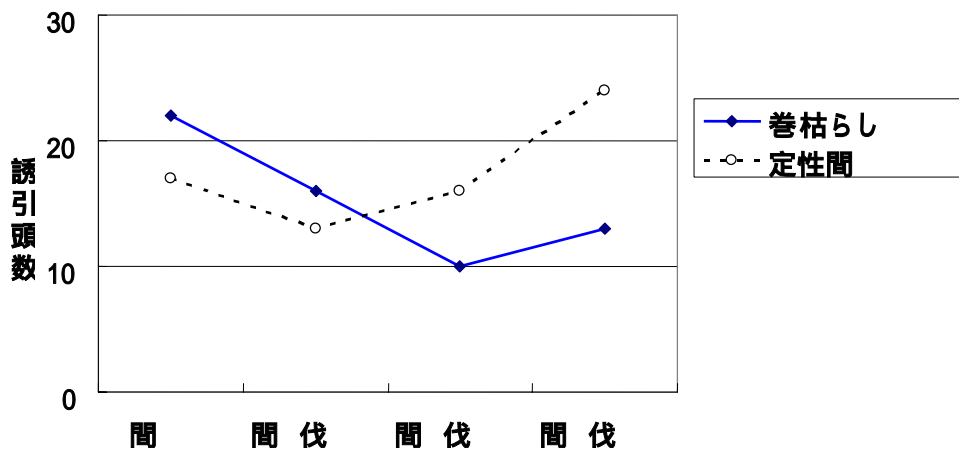


図2 巻枯らし間伐区、定性間伐区のキバチ類の誘引頭数  
 注：誘引頭数はオナガキバチ、ヒゲジロキバチ、ニホンキバチを含む総数

[その他]

研究課題名：森林機能発揮のための簡易管理法の開発

予算区分：国庫 1 / 2 (普及情報活動システム化)

研究期間：2004～2008年度

研究担当者：清水正俊 吉本貴久雄 森口直哉